

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科		科 目 区 分	その他	授業の方法	講義演習
科 目 名	実習前指導Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	時間(単位)
対 象 学 年	3学年		学期及び曜時限	前期	教室名	404
担 当 教 員	専任教員	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
7月からの臨床総合実習に必要な知識・技術はもとより、臨床に臨む姿勢、態度についても学ぶことを目的とする。内容は言語聴覚療法各領域に渡る。臨床総合実習で活用できる評価方法とその考察、訓練プログラム立案、実施について演習をまじえ行う。						
《成績評価の方法と基準》						
<ul style="list-style-type: none"> ・実習前にOSCE(客観的臨床能力試験)を行う。(AMSD、WST、MWST、RSST等) ・演習においてSLTA、高次脳機能の評価を実施予定 						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
各分野の教科書、検査マニュアル						
《授業外における学習方法》						
<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ検査を実習で実施できるよう学生同士で練習する。 ・評価・訓練プログラム立案、実施の演習では教材作成、レポート作成に取り組む。 						
《履修に当たっての留意点》						
臨床実習では指導者の監督下ではあるが、実習生としての責任が生じる。必要な準備を行い実習に臨めるよう自覚を持って履修することを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	意味セラピー、音韻セラピーの概要を説明できる。			
		各コマにおける授業予定	失語症 認知神経心理学的アプローチに基づく訓練法①			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	意味セラピー、音韻セラピーに基づき訓練課題が作成できる。			
		各コマにおける授業予定	失語症 認知神経心理学的アプローチに基づく訓練法②			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションADLへのアプローチを説明できる。			
		各コマにおける授業予定	失語症 実用的コミュニケーション能力に対する訓練			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	映像から必要な所見が記載できる。			
		各コマにおける授業予定	失語症 症例検討 ① 映像			
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	所見から障害メカニズムを考察できる。			
		各コマにおける授業予定	失語症 症例検討 ② 映像			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	所見と考察から対象者の全体像を把握し説明できる。		
		各コマにおける授業予定	失語症 症例検討 ③ 映像		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	失語症総合検査を適切に実施できる。		
		各コマにおける授業予定	失語症 演習① 検査実施		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	検査所見を記録し考察できる。		
		各コマにおける授業予定	失語症 演習② 検査のまとめと訓練立案		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	考察から問題点を挙げ、訓練課題を立案できる。		
		各コマにおける授業予定	失語症 演習③ 検査のまとめと訓練立案		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	立案した訓練課題を実施できる。		
		各コマにおける授業予定	失語症 演習④ 訓練実施		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	演習全体を振り返り、対象の全体像を説明できる。		
		各コマにおける授業予定	失語症 演習⑤ 振り返りとまとめ		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	検査の概要を理解し実施できる。		
		各コマにおける授業予定	重度失語症検査①		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	検査の概要を理解し実施できる。		
		各コマにおける授業予定	重度失語症検査②		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	検査の概要を理解し実施できる。		
		各コマにおける授業予定	標準失語症検査補助テスト SLTA-ST ①		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	検査の概要を理解し実施できる。		
		各コマにおける授業予定	標準失語症検査補助テスト SLTA-ST ②		